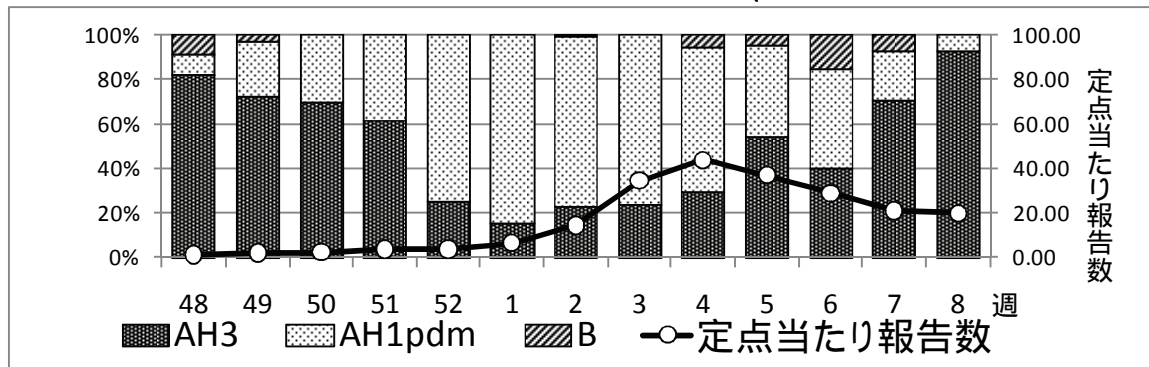


今冬のインフルエンザウイルス検出状況(速報)

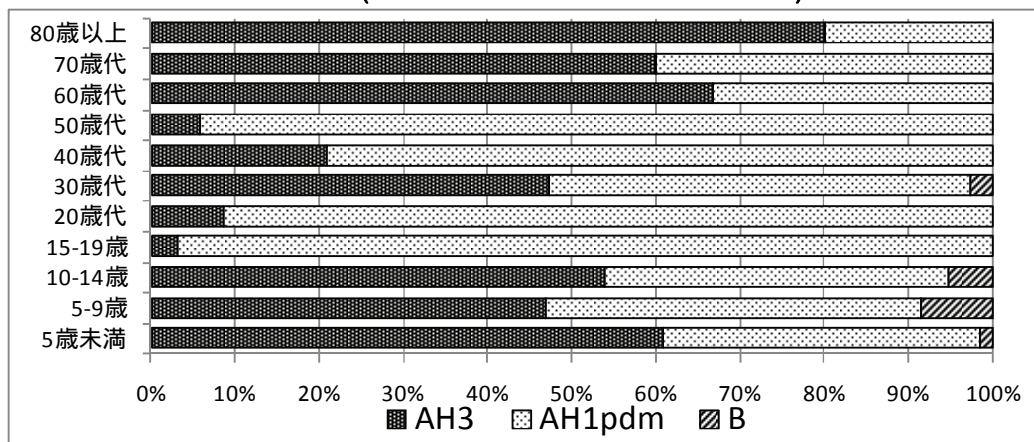
インフルエンザウイルスは、定点当たり報告数が1.00を超えた2010年第48週(11月29日～12月5日)から2011年第8週(2月21日～27日)までに採取された検体から、新型インフルエンザA/H1N1(A/H1pdm)が289件、A/H3N2(A香港)が250件、B型が21件の計560件が検出されました(3月7日現在)。週別では、2010年第48週から第51週(12月20日～26日)までA香港が検出数の50%以上を占め優位な状況が続きましたが、第52週(12月27日～1月2日)以降2011年第4週(1月24日～30日)まで、A/H1pdmが優位となりました。第5週以降は、A香港の検出数が増加し、第7週以降再び優位な状況となり、第8週では90%以上がA香港でした。また、B型は、流行当初から検出され、第4週から第7週までは、4週間連続で検出されましたが、その割合は少なく20%を超える週はありませんでした(図1)。

図1 インフルエンザウイルス検出割合・定点当たり報告数(2010年第48週～2011年第8週)



年齢階級別では、5-9歳及び30歳代でA香港とA/H1pdmがほぼ同じ割合で検出されたほか、15-19歳、20歳代、40歳代、50歳代でA/H1pdmの検出が多く、その他の年齢階級では、A香港が優位となっていました。また、B型は30歳代の1人を除き15歳未満から検出されました(図2)。

図2 年齢階級別検出割合(2010年第48週～2011年第8週)



病原体定点の先生方には、検体採取を引き続きよろしくお願いいたします。

インフルエンザに関する最新の全国情報は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>) でご覧いただけます。